



やんばるとは?

沖縄本島北部の豊かな森林に囲まれた地域をやんばる(山原)といいます。やんばるの森林には地球上で、ここだけにしかないヤンバルクイナ、ノグチガラなどの固有種や絶滅危惧種が数多く生息しています。日本の全面積の0.1%にも満たないやんばるに全国の高等木植物の27%もが自生し、また単位面積あたり本土の51倍の動物が暮らしているそうです。

やんばるは、たんに国内において貴重だというだけでなく、世界的に見ても生物多様性に富んだ重要な自然環境といえます。その価値を多くの人々が認め、世界自然遺産、そして国立公園の候補に挙がっています。

東村高江と米軍基地

やんばるの中に東村があります。その東村の北のはずれにある集落が高江です。人口約150名、中学生以下が人口の約2割を占めます。美しい山と川に囲まれる子どもたちも、のびのびと育っています。しかしこの緑豊かな高江と総面積7,800ヘクタールの米軍北部訓練場(ジャングル訓練センター)は、隣り合わせにあります。北部訓練場はジャングルでの戦闘の訓練を目的に1957年に使用が始まり、その3年後に開始されたベトナム戦争でのゲリラ戦の訓練が行われました。現在でも東村には15ヶ所のヘリパッドがあり、高江住民は火暴音や墜落の危険にさらされています。そこへ新たに高江集落をまるごと取り囲むようにして、6ヶ所のヘリパッドの建設が予定されています。一番近い民家からわずか400mという距離なのです。

ヘリパッドとは?

ヘリパッドとは、ヘリコプター離陸着陸帯のことです。やんばるの森林を切り開き直径75mの円形に造成して作られます。やんばる全体で見たら小さな点かもしれませんが、その点が軍事ヘリが飛び交うことにより、点が糸に、糸が面になり、豊かな生態系と住民の暮らしに与えるダメージは計り知れません。

なぜ高江にヘリパッドが建設されることになったのか？ SACO合意とは？

まず SACO 合意について。沖縄での米軍基地の新設問題を語る際必ず出てくる言葉です。1995年、米兵による少女暴行事件に抗議する県民大会が開かれおよそ10万人もの人が(沖縄、宮古、八重山の合計)集まりました。反米、反基地の感情が高まる中、SACO「沖縄に関する特別行動委員会」が設置されました。県民の「基地の整理縮小」という要求を受けて発足した SACO ですが、実際には「基地の尖鋭化と再編強化」の意図が隠されていたのです。SACOの決定に、日米両政府が合意したというのが「SACO合意」です。この SACO 合意により北部訓練場の約半分を返還する条件として、もともと返還される部分(国頭村側)にあるヘリパッドを高江に移設ということが決められていたのです。それと同時に海から陸への上陸訓練の為の水壕と土地(宇嘉川流域と河口)を新たに提供すること、そして……新機種、オスプレイの配備も決定していました。

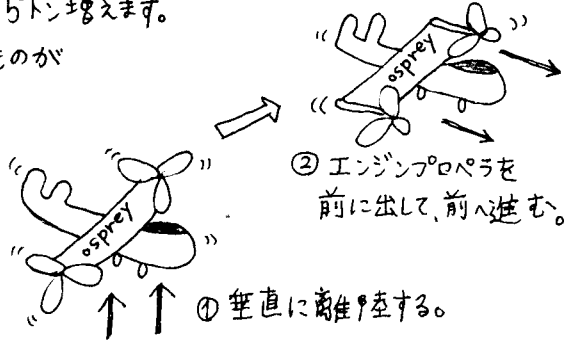
オスプレイとは？

現在では主に「CH46」というヘリコプターが高江の上空を夜の10時過ぎでも、かまわず訓練飛行を続けています。余りに低空飛行するため民家に近い県道の脇の木々が倒され道路に散乱している事もあります。今でさえ、この様な危険な状況ですが、新しく配備が決定している「オスプレイ」は「CH46」の航続距離5倍、積載量3倍、(最大で本機1体と合わせ27.5トン)。

速度2倍ならば火暴音は??倍!! オスプレイは、垂直離陸することに加え、滑走に離陸することもでき、その場合垂直離陸に比べ積載量が3.5トン増えます。

6ヶ所のヘリパッド予定地のうち、2つがくっついているものが2ヶ所あります。それらは、オスプレイ滑走用の「オスプレイパッド」と専門家は見ています。

しかもオスプレイは、2000年の時点で生産された15機のうち、3機が墜落し、安全性が疑われ、米国内でも配備の反対意見が多くでています。日本政府は、未だ、オスプレイの配備を隠しています。

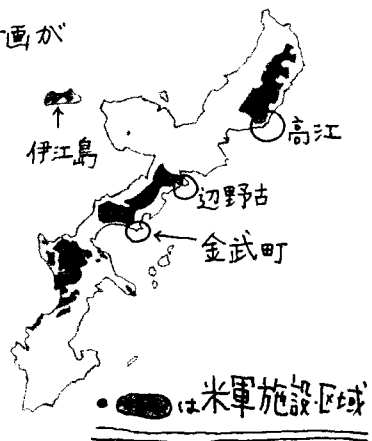


不安定な構造のオスプレイ

どこを飛ぶことになる？

同じく「SACO合意」による普天間飛行場の名護市辺野古への移設計画があります。また、金武町では、ギンバル訓練場の返還に伴うブルービーチ訓練場へのヘリパッド建設計画があります。やんばるの東側に位置する高江、そこから南へ約40kmに辺野古、更に南に約20kmに金武町、そして、やんばるの西側海上には、伊江島飛行場があります。

高江と金武町にヘリパッドが、辺野古に新基地が建設されたら、これらを基点にし、やんばる全域を危険な米軍機が飛び交う事が容易に想像できます。



沖縄の水が危ない!!

北部訓練場には、5つのダムが点在し、沖縄本島生活用水の60%を有する貴重な水源地です。2007年には、そのダムに投棄された弾薬類が1万発以上発見されました。更に、ベトナム戦争時、北部訓練場において、米軍が枯葉剤を散布していたことも明らかになりました。

このヘリパッド建設により、ダム周辺でのジャングル単兵訓練が激化し、更なるダムの汚染につながる事が心配されます。

キチとカネとアメとムチ

ヘリパッド反対を公認し、2007年4月に就任した地元東村の村長は翌5月に「公約違反と言われても仕方ない。」と述べ、一転してヘリパッドの受入れを表明しました。東村長の決断の背景には、何があつたのでしょうか？政府は在日米軍再編の協力度合に応じて、関係する地方自治体に、再編交付金を支給することを柱にした「米軍再編推進法」を成立させるなど「アメとムチ」の政策がエリ露骨になってきています。沖縄は経済的に優遇されているから基地を受け入れるべきだ、という意見もあります。しかし実際には北部振興策などで潤うのは地元経済ではなく、本土企業にお金が入る仕組になっているのです。そして振興策で作られた(ムダな)道路や、建物の維持管理で、地元市町村の財政は苦くなる一方です。

「基地があるから仕事がある。」と言われています。しかし...

日本の国土の0.6%の沖縄に、在日米軍基地の75%もが(詳しくは、在日米軍専用施設面積の75%)あるにも関わらず、平均所得は、全国最低。そして失業率は、全国一です。



この自然豊かな沖縄島において、「基地がなくては、生きていけない」という不思議な話が常識として通用してしまう程、民意はコントロールされています。「キチとカネとアメとムチ」により、地元市町村は混乱し、住民は賛否両論で分断されているのが現実です....

N/Aヘリパッドmap.

高江は今……

高江の住民は2006年2月23日にヘリパッド反対の決議をしました。その後、関係機関に出向き、計画の見直しを要請してきました。その声を無視するかたちで、防衛局は2007年7月2日強行に工事を着工しました。その日から生活を犠牲にし、住民たちは座り込みによる工事阻止行動を続けています。そして2008年2月7日には2万2000通集まった反対の署名を国会に提出しました。実際座り込みに参加できるのは高江の中でも数世帯です。

県内外の支援が求められています。一緒に座り込みませんか…? 分からない事があればお気軽にご連絡下さい。(メールも可。ブログにもアクセスして下さい。)

来られる方は、まずN-4ゲート前で受付をお願いいたします。

高江には… 青争かな朝鳥の声、夜には満天の星空があります。

みなさん関心を!!

高江では、今日も座り込みは続いています。(もちろん辺野古でも) 豊かな自然に囲まれた高江は、戦争のできる国に向かう日本の最前線となってしまいました。このことは、沖縄だけの問題ではありません。いずれ日本全国各地で起こりうることもあります。米軍と自衛隊の一体化も着々と進んでいます。私たちの税金で全ては行われるのです。(米軍再編に3兆円。) 自らのそして子どもたちの命を守るためにも皆さん是非関心を!!

連絡先

ヘリパッドいらない住民の会 (通称 ブロッコリーの森を守る会)

住所 〒905-1201 沖縄県国頭郡東村高江上新川 85-2

Tel/Fax 0980-51-2688 携帯電話 090-9789-6396

メール info@nohelipadtakea.org

ブログ 「やんばる 東村高江の現状」
<http://takea.ti-da.net/>

カンパ払込口座 郵便局 01780-1-65612

払込先名義 ブロッコリーの森を守る会

※私たちの活動は、カンパでまかなわれています。どうぞ宜しくお願いたします。



さいごに、アメリカ先住民のことは

インディアンやネイティブアメリカンと呼ばれるアメリカ先住民は、“何か決めるとき7代先のことを考えて決める”と言います。自分たちが生きている今だけでなく、ずらと先の未来の子どもたちのことを考えて行動するのです。私たちの行動や選択のひたひたが未来の子供たちの暮らしをかたち作っています。子供たちは私たちから何を受け継ぐのでしょうか? できれば戦争や汚染された大地や、空気や水などではなく、自然の恵みいっぱい平和な日々であってほしいと願わずにはいられません。